

テーマ

ふるさとの歴史を知り、郷土愛と誇りをもち後世に伝える

事業実施地区（中学校区名）	松江市立湖南中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	松江市忌部公民館 松江市乃木公民館

テーマの背景

平成2年に忌部自治協会が「忌部郷土史—昭和編—」を発刊した。その後、公民館を拠点としてまちづくりが盛んに行われたが、その一つに、「地元に住む者が由緒あるわが郷土を知らずして」という意識が働き、郷土研究会を発足した。この会では、忌部という地名を理解すること、郷土の歴史や伝承文化を理解することから始めた。しかし、その後は際立った活動はなく、研究会も高齢化し自然消滅していった。数年前に、「わがとこ聞き歩記」の作成を契機に新メンバーにより研究会を再スタートした。

今回、公民館ふるさと教育推進事業の補助により、古代忌部神戸の玉作りや、松江藩時代における乃白地区での和紙生産について学ぶ機会を持つとともに、忌部神戸以前の豪族の古墳の整備を実施し、存在を広く知ってもらおう。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名： 忌部・乃白の歴史自慢講座

<取組の概要>

5月、忌部地内の各自治会へチラシと案内文を送付した。また乃木地区は乃白町が中心となるので、乃木公民館、乃白自治会に開催案内と趣旨説明をした。

◎ 忌部・乃白の歴史自慢講座を4回シリーズで実施

第1回：古代出雲とヤマトをつないだ玉作の里「忌部神戸」及び乃木地区の田和山遺跡の謎について講座

第2回：忌部一崎にある山城の城山城について、山中鹿之助を中心とする尼子家復興戦など戦国時代の尼子・毛利の攻防の講座

第3回：乃白町の現地視察研修 八雲より古い松江藩時代の乃白町の和紙づくり、弥生時代につくられたという田和山遺跡の話

第4回：松平不昧公による財政改革の講座 堀尾、京極、松平まで産業・経済政策はそれぞれが独自の工夫と努力を重ねてきたが大災害や幕府からの大修理下命により極端に財政がひっ迫した。それを救った立役者の講座

<成果と課題>

「忌部」と聞くとあまり好まない文字が使われている。しかし、実はそうではなく清浄な区域を表しているが、忌部に住みながら忌部のことを知らない人が多い。参加者は各シリーズとも20名前後と多くとは言えないが、受講生は大いに勉強になった。

また、乃白地区に「紙屋口」という路線バス停があり、松平直政公時代から和紙づくり産業が進められたということを知ることができた。

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：客古墳の整備

<取組の概要>

◎ 客古墳の整備

客古墳は、忌部神戸が形成される100年前の豪族の墳墓で、玉作に関する指導者であったと考えられている。古墳は、石による室が露出し大半は損壊している。大正12年に発見され、金環、銀環、首飾り、須恵器等が出土した。大きさは、幅1m、長さ3.8m、高さは屋根石がないため不明。横穴式石室。

以前はきちんと整備されていたが、多目的運動広場盛土造成後放置され、荒廃していた。今回、標識用の柱を立て、毎年見学する小学生や一般人にも所在が分かるように整備した。

<成果と課題>

埋もれていた忌部の豪族の客古墳や、尼子家復興戦の頃につくられたという山城（城山城）など、忌部にはまだ多く史跡等がある。今後も歴史講座等を通じてもらいたいという要望は強い。「子どもと大人の歴史教室」では、主に小学生が学び、忌部の宝を発見することができた。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

- 1 大人、子どもが郷土の歴史を学び、地域に対する愛着と誇りをもち、後世に伝える。
- 2 地元の遺跡を整備保存し、地元で周知する。

今後の展望

- 1 大人、子どもたちの地域の歴史を訪ねる学習は、座学や視察研修をとおして深めていく。
- 2 遺跡の整備と保存を進める。
- 3 来町者が尋ねてきても、地区民の多くが地元をガイドできるように、郷土の歴史について広く、やや深く習得できる学びの場を提供する。



第3回忌部・乃白の歴史自慢講座
乃白町カジキ神社前にて宍道講師による説明



客古墳環境整備完了